

14年分のモバイルICTの利用動向をまとめた「モバイル社会白書 2023年版」を公開 ～モバイル社会研究所の定点調査でスマートフォン比率が96%超え～

株式会社NTTドコモの社会科学系の研究所であるモバイル社会研究所は、2010年から2023年まで14年間のモバイルICTの使われ方などの調査結果をまとめた「モバイル社会白書 2023年版」(以下、本データブック)をモバイル社会研究所のウェブサイト上で無償公開いたします。

「モバイル社会白書 2023年版」 URL: <https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp23.html>

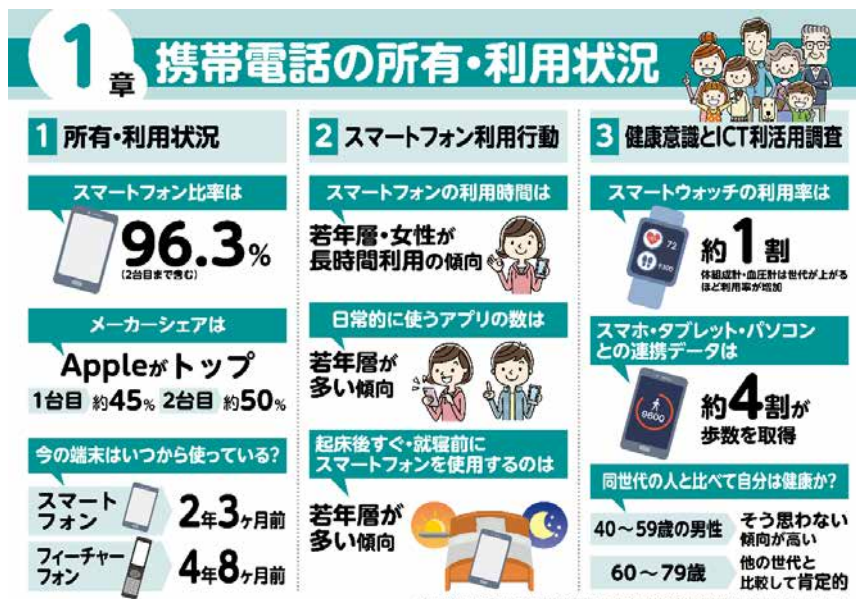
モバイル社会研究所は、通信業界の直接の利害を離れ、自由で独立した立場から、モバイルICTのもたらす光と影の両面を広く解明し、その成果を社会に還元することを目的に2004年に設立しました。スマホ・ケータイの使われ方を量的に把握する調査を毎年実施するとともに、モバイルICTの利用による生活者の行動・価値観の変化を解明する研究に取り組んでいます。

本データブックは、モバイルICTの14年間の利用動向だけでなく、子どもやシニアの利用実態や防災・減災、コロナ禍以降のニューノーマル時代の生活、スマホ利用時の行動や意識、健康意識など幅広い内容に関する豊富なデータを掲載しています。加えて、ダイジェスト版の動画を配信します。このほか、これからのモビリティーズ、SNS利用、AIとの共生、地方交通危機など現在を切り取る4本のコラムも掲載しています。

今後も、モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析し、世の中に向けて広く研究成果を発信してまいります。

【ダイジェスト版動画】 <https://youtu.be/UvTV-9Gvmu8>

<要約版イメージ>



「モバイル社会白書 2023 年版」概要

1. 「モバイル社会白書 2023 年版」の主な内容

◆1 章: 携帯電話の所有・利用状況

[携帯電話所有者のスマートフォン比率が 96%超え]

コラム 1: これからのモビリティーズに向けて: 自転車への注目と通信への期待

◆2 章: モバイル・コミュニケーション

[ニュースを得ているメディア: 若年層は SNS、シニアはテレビ]

コラム 2: 「映え」より連絡ツール? 「つながる相手の選び方」のいまむかし

◆3 章: コンテンツとメディア

[YouTube® 認知率 9 割超え・利用率約 7 割]

コラム 3: AI との共生

◆4 章: ニューノーマル

[テレワークのメリット”通勤時間の有効活用”]

コラム 4: コロナ後の地方交通危機と通信ネットワークへの期待
: 通信と自動運転、2 つの新たなネットワーク化

◆5 章: 安心・安全

[画面ロックの実施率、年齢が上がるほど低下傾向]

◆6 章: 防災

[「SNS で災害情報を取得する」は若年層ほど高く、20 代以下は 7 割を超える]

◆7 章: 子どもの ICT 利用

[学校でのタブレット・パソコンの使用頻度は 2 極化]

◆8 章: シニアの生活実態と ICT 利用

[70 代スマホ所有率は 8 割 地域差が見られる]

2. 主な調査設計

調査方法 : ウェブ調査

調査時期 : 2023 年 1 月

調査対象 : 全国の 15~79 歳男女(6,559 サンプル)

標本抽出法 : 性年代・都道府県で割り付け

(その他、健康調査、スマホ利用者行動、ニューノーマル生活意識調査に特化したウェブ調査を実施。また子どもやシニアに特化した訪問留置調査を実施。)

※「YouTube」は、Google LLC の登録商標です。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社NTTドコモ
モバイル社会研究所 企画担当
メール: msri-inq-ml@nttdocomo.com